
かべのなかにいる

東條誠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かべのなかにいる

【Nコード】

N0878BA

【作者名】

東條誠

【あらすじ】

魔法使いとの契約、契約期間は1年、実験の内容は物質との同化。期間が終われば大金が手に入る。私は喜んで契約した。

知らない男が、知らない女を犯している。
いつもの光景。

毎日、色々な人々が、ここにはやってくる。

愛しあうため、子供を作るため、身を売りお金を稼ぐため、理由も様々だろう。

大抵は夫婦か、不倫関係のような感じの人々だったが、他にも誘拐されたのか、袋に入れられた年端もいかない子供が、無理やり犯されていたこともあった。

動物と人、男同士、女同士、無理やり、複数人で、死体と、殺害しながら、本当に色々だ。

ここは、金を払えばどんな人でも、人でなくても、理由も問わない宿……の、かべの中

もうこの状況になってから200組ほど、見せつけられた。

ある日、魔法使いに、実験に協力してくれと頼まれた。

提示された金額は、人が一生いや、三度は人生を遊んで暮らせるような金額だった。

期間は一年、実験は物質との同化、死ぬことは、無い。

同化実験の対象、私が同化するのには、太古の昔から存在する連れ込み宿、の部屋の壁だと説明された。

私は、人の情事を見て興奮する変態である為、一年、好きなモノを見続けるだけで、軽く一生を遊べる金が入ると思い、その話に飛びついた。

しかし、実際は全く想像と違った。

色々問題はあるが、一番の問題は手が無い為、自分の股ぐらのモノを触れない。いや、股ぐらのモノも存在しない。見せつけられても

全くすつきりせず、溜まっていくばかりだ。そして目も閉じられず、どんな展開であろうが見続けなければならぬ。

しかし、もう1月はたっただろう、あと11月で終わる。

すでに精神は限界だが、終われば一生遊べる金が入る。その金の使い道を考えながら耐えることにしよう。

この日、魔法使いが訪ねてきた。

「ああ、同化して数時間が経つが気分はどうだい」

・・・今、魔法使いはなんと言った？

数時間

確かにそう言わなかったか？

私はそんなはずは無い、と思った。

そうだろう、数時間で200組の情事など行える訳がない。

そう考えていると、その思考を読み取ったのか、魔法使いは言った。

「ふむ、やはり過去の壁の記憶も見ているようだね」

なんだと、では実際、同化してから何時間ほどが経っているんだ。

「今現在、君が同化してから丁度3時間が経過した所だ。」
考えた。

1月3時間一日24時間8倍365日2920倍12月243 / 3

33333・・・

なんという事だ。

私は体感であと243年分も精神をすり減らさなければならぬ。

「ああ、同化が安定するまで、壁の記憶は九割九分、ほぼすべて遮断してあるはずなんだ。それでもそれだけ見た、というのは、やはりこの事柄は実に興味深い。」

無理だ、と思った。契約を破棄することは出来ないのか？

「魔法使いとの契約に破棄は存在しない。それを行うには契約した魔法使いの存在を消すしかないが、壁になっている今の君では絶対に不可能だね。」

本来なら三時間程度で、200月分を見せられるだと・・・

「ああ、私が今、ここに居るのは、同化が安定したようなら、魔法で遮断していた壁の記憶を透過するために来たんだよ。いつも通りの時間で安定したようだね。」

まてまてそれをしたら私は・・・

「今度は数日後に様子を見に来るよ。この壁に同化した大抵の人間が最初の数日で壁そのものになってしまったのでね、そこまでの情報には十分なんだ。君はどうだろうね。」

魔法使いと会話しながら、しかし私は別の光景、沢山の人々の、沢山の情事を見ていた。

「耐えてくれよ、たった1年じゃないか。耐えてくれないと私のこの方面の実験が終わらない。・・・では、そろそろ行くよ。別の場所でも、別の実験を行なっているんでね。」

そんな事を言いながら魔法使いは去っていった。

私はすでに私が誰なのか曖昧になっている。

数日後

十数年しか生きていない私の記憶は、数万年あり続けた壁の記憶と、今まで実験で同化したのであろう、数百人分の、少しの記憶に押し潰された。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0878ba/>

かべのなかにいる

2012年1月2日00時49分発行